生命（いのち）の水 うるおす未来

アジアネット

JAFS NEWS & REPORTS 2024年秋 159

特集 災害から守り産業育てる村

巻頭言

海外支援経験で国内若者育てる

端無 勝
アジア協会アジア友の会
理事

ＪＡＦＳとの関わりは28歳の頃、インドワークキャンプに参加してからですので、早22年が経ちます。その頃は国際協力活動に本格的に取り組みたいと思い、経営していた居酒屋を売却し、海外留学や国際ボランティア活動をしたり、世界の様々な問題を現地で学びたいと考え、多くの国を訪問しました。

帰国後、ＪＡＦＳ創設者の村上公彦先生にご連絡し、その頃興味のあった難民支援活動に挑戦する機会を頂けました。

２００２年、早速単身でパキスタン領内のアフガニスタン難民キャンプで、提携団体のＰＡＦＳ（パキスタン友の会）と共に活動を開始し、複数の難民キャンプをリサーチし、受益者数が最も多い場所で井戸を建設しました。

今考えると、治安が良くないエリアですので、リスクがある活動だったと思います。そこを村上先生が調整下さったことには大変感謝しております。

その後はＪＡＦＳ緊急支援チームの立ち上げに加わり、イラン、パキスタンの震災支援に携わることができました。

２００４年のイランの震災支援の際は、ＪＡＦＳの提携団体も人脈もない中、ほぼ単身で乗り込みました。滞在場所をなんとか確保し、食事は軍の備蓄品を頂きながら、被災者と同じキャンプ生活を送りました。被災者の方々に今必要な支援が何かを聞き取り調査した結果、生活用品（着替え、生理用品、日用雑貨）が不足していると判明し、パッケージにして難民キャンプで配布しました。自分自身がキャンプ生活の過酷さを経験したことにより、メンタル的にも強くなれたと思います。

これらの経験から、若者に様々な機会を提供する重要性を身をもって学び、現在は、会社経営者として国内とインドネシアで教育支援事業を通じて、子どもたちに様々な学びの機会を提供しています。

アジアの子どもたちと触れ合う機会が多いのですが、年々強く感じているのが、日本の子どもの弱体化です。温室育ちで、非常にデリケートで心の弱さが目立ち始めています。

それに比べアジアの子どもたちは、のびのびとたくましく育っています。さらに、教育レベルが向上し、優秀な若者が多く育っています。

日本は国力が衰え始め、若者の覇気や情熱の低下を感じます。平均年齢が若く元気なアジアは、これから経済的にも大きく飛躍するでしょう。このような状況だからこそ、ＪＡＦＳは海外の支援だけではなく、我が国のためにもどのような活動を進めていくかを真剣に考えるべき時期にあります。

これまで創り上げて来たＪＡＦＳのネットワークを活用し、日本の若者や社会にも様々な機会を提供することができるはずです。アジアと日本がともに共栄できるよう、ＪＡＦＳの強みを活かしていきたいと考えています。

●プロフィール●

はなし・まさる　大手自動車メーカーに就職後、会社員に向かないと感じ20代半ばで居酒屋経営を始める。居酒屋を売却し、国際ボランティア活動など経験。自分らしい国際協力をする資金確保のため、２００５年千葉県で学習塾開業、07年法人化。現在はビジネスコンサルティングや教育支援事業などを行っている。㈱デュアルエデュケーション代表取締役社長。22年ＪＡＦＳ理事就任。

ＪＡＦＳ会員綱領

私たちは、世界の平和と人間の基本的人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。

かかる目的をもって私たちＪＡＦＳ会員は以下のことに努めます。

一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。

一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。

一、地球の自然環境を大切に守ります。

一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。

一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命（いのち）の価値を高めます。

以上

● 主な目次 ●

「巻頭言」海外支援経験で国内若者育てる　02
特集：災害から守り産業育てる村　04～06
ネパールで土砂崩れを防ぐ山腹工／実のなる木を植え貧困救う／コーヒー作って現金収入
「海外活動ア･ラ･カルト」　07～11
学生運動から政権崩壊へ―里親の会が教育支援するバングラデシュ／大規模洪水が追い打ち／植林ボランティアでネパールと交流―エネルギー事業者がCO_2削減に貢献／パンダン環境保全へ青少年サマーキャンプ／井戸を求める村の水事情―カンボジアの工夫
「井戸ができた村」　12～15
「JAFSプラザ」＝国内の活動　16・17
渓谷で命の洗濯／京の厄除け参り／歌声で健康増進／みんな参加の音楽会／アジア市民大学をふりかえって
イベントカレンダー2024年秋　18・19
新入会員紹介･領収報告　20・21
JAFS新役員紹介　21
晴天下あつい自然体験―土と水と緑の学校　22
「環境コラム」　23

アジアネット

JAFS NEWS & REPORTS 159
2024年秋

アジア協会アジア友の会とは

アジアに井戸を贈ることから地域の自立を目指す国際協力NGOです。1972年に大阪の若者により結成された国際奉仕グループ「エポス･クラブ」が発展し、1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2024年3月現在、井戸建設（累計2301基）や植林（累計260万本)、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の社団法人取得第１号です。2012年から、内閣府の認定を受けた公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、アジア18カ国（インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン）、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、70の現地提携団体を通じ、友情のネットワークが形成されています。日本国内でも、各地でチャリティプログラム、自然環境プログラムや、人材育成、留学生交流など行っています。

JAFS
since 1979
公益社団法人 アジア協会アジア友の会
Japan Asian Association & Asian Friendship Society

本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

ＪＡＦＳは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。ＪＡＦＳへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

特集

災害から守り産業育てる村

ネパールで土砂崩れを防ぐ山腹工
実のなる木を植え貧困から救う

ネパール・シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村では、社会機能と生態系の両方が持続可能な地域づくりに取り組んでいます。ネパールは自然災害多発国の一つで、地震・土砂災害・洪水で毎年多くの命と資産が失われ、また世界一標高差がある国土のために開発が大きく遅れ、災害が原因で農業さえ営めない貧困層が多くいます。

政府は２０１５年のネパール大地震の教訓や気候変動などを考慮した「国家災害リスク削減政策および戦略行動計画（２０１８～３０年）」を策定しており、日本に類似する防災チームを地域ごとに作ることも盛り込まれていますが、各地方自治体の実際の活動は進んでいないのが現状です。

そんな中、ＪＡＦＳの「防災」事業２年目の活動の様子を、技術専門家の天野紀さんが報告します。またネパール人技術者や地域の声から、現地の変化をお伝えします。

日本の防災工事技術をネパールに伝える

「防災」と「貧困対策」を両立させるため、住民とともに地域の防災力を高めながら、豊かで安定した暮らしも目指して活動しています。まずは、日本の技術を参考にしながら災害を未然に防ぐ防災工事に取り組んでいます。

今は土砂災害対策を実施中です。土砂災害には、山の斜面が崩れる「土砂崩れ」や「落石」、谷にたまった不安定な土砂が大雨と一緒に一気に流れ出る「土石流」などがあります。これらは日本でも梅雨時や台風時に毎年のように各地で発生していますが、ネパールでも同じように雨季に頻発しています。村には土肌がむき出しになった急斜面や、今にも大きな岩が落ちてきそうな場所が至る所にあり、そのような場所で土砂崩れと落石を防ぐ対策に取り組むことにしました。

参考にした日本の対策工事は、山腹工（さんぷくこう）というものです。日本では奈良時代以前の６００年代に樹木伐採禁止令が出されており、山林を守ることが土砂災害を未然に防ぐことにつながると昔から理解されてきました。山腹工（さんぷくこう）では、ダムのようにコンクリートを使った大規模な工事は行いません。周辺で手に入れることができる木材などを

斜面崩壊を防ぐため竹の柵で土留めし、その上を麻布シートで保護する作業中の現地技術者と住民＝6月21日、ネパール、シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村

し、技術指導を行うことで地域への技術継承を目指しています。

今回、私が現地で技術支援をして感じたのは、ネパールの建設作業員はとても器用に根気よく丁寧に仕事をするということです。彼らには経験のない工事でしたが、目的や施工方法を説明すると、熱心に興味深く聞いてくれます。そして、彼らなりに更に工夫を加えて提案もしてくれます。

今回の工事では施工途中から雨季に入ってしまい、一部の箇所で損傷が発生してしまいましたが、彼らはどのように修復すべきかなど日々現地に足を運び、さまざまな工夫をしてくれています。

私自身、彼らと共に現場で作業することにとてもやりがいを感じました。このような技術交流は間違いなく、それぞれの国の特徴に応じた防災力の向上につながると確信しています。

（ＪＡＦＳネパール事業エンジニア　天野紀）

◇

今回の工事の現地土木技術者であるサミール・クワールさんは、この事業について、次のように話しました。

「前職で国家事業としてカトマンズへの送水工事に関わった際に、測量や測定の重要性をとても感じました。ネパールは防災の技術は大変乏しく、大きく進んでいる日本の技術を学べることは、私たち技術者にとって大変重要なチャンスであると共に、ネパールの国にとっても非常に有益です」。

先日、この事業で山腹工（さんぷくこう）を施した一部が大雨で崩れました。杭の長さ不足が一因ですが、再工事に必要な杭の長さを割り出すために、地盤の硬軟を測る動的コーン貫入試験を行いました。この試験はネパールにはまだ導入がなく、初めての経験でした。

「山腹工（さんぷくこう）自体がネパールでは珍しく、データがほぼ無く、手探りでの工事ですが、新しい測定方法など日本の方からしっかり学ぶことができています」とサミールさんは言いました。

山腹工（さんぷくこう）を施した地域の一つ、同村９区の区長は、長年の心配が今回の工事で解消されると喜んでいます。

９区の区役所周辺は赤土が多く、土砂災害が頻繁でしたが、区役所を別の場所に建てることもできない状況です。区長は、せっかく建てた区役所が土砂の被害を受けるかもしれないと、雨が降ると気が気でなかったそうです。来年はこの山腹工の上に植林し、地盤を固定する予定です。

区長は「今年の雨期は土砂災害の心配がなくなりました。区役所が安全かつ緑多い場所となることが、今からとても楽しみです。現場の施工状況を実際に確認することで、この事業の意味が理解できるようになりました」と話しました。

コーヒー作って現金収入

インドラワティ村では今後、いざ災害が起こった時の緊急放送にも活躍する地域ラジオ放送を開始します。平常時は生活情報を流す予定で、日ごろから地域の状況に意識を向ける人が増えることで、地域に様々な変化が起きていくことを期待しています。

変化の一つとして、村の一部地域で2021年からコーヒー栽培を始めています。収入が得られる新しい産業として、地域づくりに生かすためです。

▲コーヒー栽培について村人に説明する三本木さん（左から2人目）＝インドラワティ村

一カ所で始めた栽培は今年から五カ所に増えました。多くの農民の注目を浴びる作物となっています。皮肉にも、これまでコーヒー産地でなかった涼しい地域で栽培できるようになったのは、地球温暖化によって気温が上昇しているためです。環境変化に対応しながら農村地域の生活を守るチャレンジを、コーヒー栽培技師の三本木さんから報告していただきます。

（JAFSスタッフ　熱田 典子）

JAFSコーヒープロジェクトは、2015年の地震で大きな被害を受けたインドラワティ村で、20年から水道パイプラインの大規模工事をした次のステップとして、農業開発の目的で始まりました。育苗から開始し、試験農場で栽培しています。

コーヒー栽培技師の私が現地を訪問したのは、22年6月・12月、23年6月、24年6月の計4回。育苗の重要性や栽培管理手法を説明すると共に、農家の方々にコーヒー栽培の重要性を説明し、モチベーションを上げるセミナーを行ってきました。

ネパールのコーヒー栽培の歴史は比較的短く、1944年にインドからコーヒーが伝播したと言われています。コーヒーの品種は原種の一つであるブルボン種という貴重な品種で、最高級の品質を持つものです。第二都市のポカラにはブルボンの母樹と言われる古樹も残っています。豆の精製方法は基本は水洗式ですが、山岳地では水の入手が困難なので、水をあまり使わないドライウォッシュという独特の手法で行われています。

ネパールの農業は基本的に有機的な栽培方法で、コーヒーも例外ではありません。各農家で牛を飼い、牛糞からの有機肥料を与えています。栽培技術は全くと言っていいほど進んでおらず、基本的な育苗や栽培管理、収穫方法も学ぶ必要があるのが現状です。

また近年、地球温暖化などの気候変動が大きな話題となっており、コーヒー生産にも大きな影響が出てきています。このまま気温上昇が続けば、2050年にはアラビカ種の栽培に適した地域が最大で50％減少し、生産量も半減するという説があります。これはネパールにとっても重要な課題です。ヒマラヤ山脈の雪が以前に比べて少なくなっていると聞いています。コーヒー栽培にすぐには影響しないと思われますが、注意していかなければならないでしょう。

現在も国によっては、気温上昇により生産量の減少や品質の劣化が起こっています。アラビカ種の最適気温は20～25℃と言われていますが、それを少しでも上回ると影響が顕著に現れます。大きな被害を及ぼす病害虫も増えてくるのです。そのほか長雨が続く地域では、コーヒーの開花習性が狂い、年数回に分けて開花が起こることで収穫作業にも大きく影響します。山間部では交通状況も非常に悪くなり、収穫後の精製工程にも大きな影響を及ぼすことになります。これからはおいしさだけはなく、どのように環境問題に配慮しているか、どのような労働問題に直面しているかなどのサステナブルな観点で理解していかねばなりません。

コーヒーを飲むまでには、育苗・栽培管理・収穫・精製・保管・流通・焙煎・抽出と様々な工程があり、何一つ欠けても美味しいコーヒーはできません。

来年度には試験農場で収穫も始まり、生産意欲もさらに高まると期待しています。今後はさらに苗の配布を進め、栽培管理や収穫方法なども各農家に指導していく必要があります。また今後の課題として精製方法があります。水洗式を導入する計画ですが、それには熟練した作業が必要になってきます。よりよい品質を目指し、農家の方々やJAFSスタッフと一緒に取り組んでいきたいと思っています。近い将来、皆様に飲んでいただけるコーヒーができあがりますように。

（JAFS農業技術専門家　三本木 一夫）

海外活動 ア・ラ・カルト

激しい学生運動から政権崩壊へ

里親の会が教育支援するバングラデシュ

JAFSがアジア各国でしている支援活動と、国内外の提携団体やご協力くださったみなさんから寄せられた声などを紹介します

7月下旬から8月初旬にかけ、バングラデシュでは、公務員のクォーター制度（特定層の優遇就職）についての学生中心の反対デモ活動を機に、警察隊との衝突が起こりました。これに端を発したハシナ首相退陣要求の高まりから、8月5日には首相が辞任し国外退去。2009年から続いたハシナ政権が崩壊しました。軍の主導により、8日にはノーベル平和賞受賞者のムハンマド・ユヌス氏を首席顧問とする暫定政権が発足しています。

現地提携団体AFSバングラデシュのコーディネーターであり、新聞記者でもあるゴータム・モンダルさんから、現地の様子を伝えてもらいます。

◇

日本の皆さん、バングラデシュをご心配くださりありがとうございます。今回のこの急な展開と異例な状況に驚かれていることと思います。

発端は「反差別学生運動」組織が7月1日に政府職の割り当て制度の改革を求めることから始まり、学生運動に一般の人々も加わっていくことで大きな反政府運動に発展しました（＝写真）。平和的だった運動は最終的に暴力に変わってしまい、国民の強い抗議に直面しました。

8月5日、何百万人もの「ダッカへの行進」によりアワミ連盟ハシナ総裁は首相の職を辞し、ついに与党は崩壊しました。その後、8月8日に暫定政権が発足。ノーベル平和賞受賞者のムハマド・ユヌス博士が暫定政府の主席顧問に就任。現在、国は彼の指導の下で運営されています。

今回の暴動での死者数をまだ正式に発表していませんが、メディアでは580人が死亡し数千人が負傷したと報じています。このように発展したのは市民の間に長い間蓄積されてきた怒りが原因です。過去2年間、記録的な物価インフレで日用品の価格がほぼ2倍になり人々の生活は困窮。政府主導の大規模開発は人々の生活を楽にすることにはつながらず、そして銀行の不正行為により投資者に大きな損害が発生し、何千人もの人々が貧困に陥りました。そして、インドとの関係も一般市民は批判していました。このようなことから生み出された反政府感情の怒りが爆発したのです。

このような中、残念な事態が起きています。それは政府崩壊後におきた宗教的少数派のヒンズー教徒少数民族への襲撃です。52の地区で少数民族コミュニティのメンバーに対する襲撃事件が少なくとも205件あったと報告されています。その襲撃により多くの寺院が焼かれ、多数の女性が暴行を受け、殺人事件も発生しています。統一評議会会長の一人ニルマル・ロザリオ氏は、暫定政府に対し「私たちの生活は悲惨な状態にあるため、保護を求めている。私たちは夜通し起き、家や寺院を守っている。これまでの人生でこのようなことは見たことがない。私たちは政府が国内のコミュニティの調和を取り戻すことを求める」と訴えています。（デイリー・スター紙、2024年8月10日）

このような少数派への迫害が同時に起きることは大変悲しいことです。この国は今、大きな変化の中にありま

す。しかしその変化は、社会から差別を取り除き、正義を確立し、宗派主義のない国を築くためであるべきです。これらの目標がいつ達成されるか、今はまだ分かりません。暫定政府がどれだけの期間を担うのかは不明ですが、目下バングラデシュ国民が暫定政府に期待しているのは、差別のない社会を築き、汚職をゼロにし、正義を確立することです。それがまず一番求められていることなのです。これがバングラデシュの今です。

（AFSバングラデシュ・コーディネーター、新聞記者　ゴータム・モンダル）

◇

JAFSが里親の会を通じて教育支援しているバングラデシュの提携団体BDP（Basic Development Partners）からは、運営するBDP学校の子どもたちの様子について、次のようなコメントが届きました。

◇

7月と8月はひどい政治状況でした。全ての学校、大学、オフィスが閉鎖されました。ようやく8月19日の週から、全ての学校と大学が再開されました。

私たちは、国民の生活と教育の安定化のために、皆が平和と調和の中で暮らす民主的な国を必要としています。そのために、まずは全政党が参加する、信頼できる参加型の選挙が実施されることを望んでいます。

BDP学校は8月11日に再開しましたが、8日の暫定政権発足後しばらくは、登校する子どもは半数もいませんでした。子どもを外に出すことに不安を感じた親が多かったようです。現在は、ほぼ全員が以前と同じように授業に出席するようになりました。

国全体の状況は日々改善してきていますが、少しでも日常が正常化することを願っています。

特に子どもたちの教育状況については、以前からの課題がすぐに解決される状況になるとは言い難いです。そのため一番にすべきなのは、子どもたちが安心して教育を受けられる環境づくりだと考えています。

今回の前政権崩壊の一因ともなった経済状況悪化により、農村や僻地（へき）では、中学生や高校生の早婚率が上昇しています。少女たちの早婚は、人生の選択を狭め、貧困の連鎖に大きく関係してきます。一人でも多くの少女たちに中学・高校教育の機会を提供することが、この早婚を防ぐことにつながります。JAFS里親の会が支援くださる教育里子の数を増やしてしていただくことが有益な方策です。日本の皆様にはバングラデシュの未来のために今、まずは少女たちが教育を受けることができるようにサポートしていただきたいと願っています。

（BDP代表　ヘモント・コライア）

大規模洪水が追い打ち

バングラデシュの約580万人が被災

前政権崩壊後ようやく落ち着きを取り戻し始めた矢先の8月下旬、バングラデシュ南東部のチッタゴン一帯では、モンスーンによる大雨の影響で大規模洪水が発生し、580万人以上が避難を余儀なくされました。住居の浸水や停電被害のほか、農作物が流されて農民は収入源を失っています。

政治が不安定な中での災害により、人々は混乱の中にいます。9月上旬、インド国境に近いカグラチャリ県のモンゴル系先住民の村では、政府の支援が届かず、人々は栄養不足です。また海沿いのノアカリ県は低地のため、洪水が激しかった上に水はけも悪く（＝写真）、人々は家を失い、不衛生な水が原因で病気も蔓延しています。栄養不足のほか、宗教や人種の異なる子どもや女性への虐待も起こっています。

この2地域に対し、BDPは食料や医薬品・日用品などの物資救援活動を始めており、支援要請が届いています。寄付への温かいご協力をお寄せいただけますよう、お願いいたします。

バングラデシュ大規模洪水

被災者支援　ご寄付のお願い

◆三菱UFJ銀行 中之島支店、普通 1007011
公益社団法人アジア協会アジア友の会

◆郵便振替　口座番号00960 - 6 - 10835
アジア協会アジア友の会

植林ボランティアでネパールと交流

エネルギー事業者としてCO_2削減にも貢献

「かんでんNGOネットワーク・きょうと」（京都府電力総連の加盟労働組合が組織するボランティア団体）のメンバー11名が、7月19日～27日の9日間、ネパール・シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村で、ワークキャンプを実施しました。10年ぶりの開催で、労働組合による国際貢献活動の意義を再確認しました。

年齢的に若いので手を挙げましたという方、国際活動を体験できる可能性を知り参加しましたとの方、耳が聞こえないが海外旅行とは違う体験をしてみたいと参加された方など、ほぼ初対面のチームでしたが、「職場に戻ったらこの体験を伝えて続けていけるように賛同者を増やします」と、まとめの会で参加者から声があがりました。

JAFSは国際協力の推進だけでなくその楽しさを多くの人に知っていただきたいと願い様々なプログラムを実施しています。JAFSにとってもうれしい再開ワークキャンプでした。

以下は、チームを引っ張ってくださった団長であり関西電力労働組合京都地区本部の書記長・樋口真也さんの報告です。

（JAFSスタッフ　熱田 典子）

◇

私たち「かんでんNGOネットワーク・きょうと」は、エネルギー事業に携わる労働組合の組合員が、自主ボランティア組織として1998年（平成10年）に設立して以降、アジア諸国などとの国際連帯と組合員のボランティア意識の高揚を目的に、JAFSと連携を図り活動を実施しています。

今回はネパール第5次植林ワークキャンプを実施しました。25年ぶりに参加する1名を除いて初めての参加者ばかりで、日本との生活環境の違いに若干の不安を感じながら現地に到着しました。植林作業では日中は日差しが強く、非常に暑い中での作業であることに加え、斜面で足下が悪い中での作業もあり、苗を植えるだけでも想像以上に重労働でした（＝写真）。

植えた木は、大きく育った葉を家畜の餌として活用するなど生活を支えます。それと共に、CO_2の吸収により地球温暖化の防止にもつながるということで、エネルギー事業に従事している私たちとしてもやりがいを感じながら作業することができました。

作業の合間には小学校を訪問し、折り紙を教え、紙ヒコーキを作って飛ばすなど、子どもたちと交流しました。言葉も通じない中で喜んでもらえるか心配でしたが、「ナマステ～」と可愛い笑顔で迎えてくれ、短い時間でしたが日本の文化を少し伝えられたのではないかと思います。

3日間でコーヒーの苗木を含め1,250本の植林作業を誰一人欠けることなくやり切れた達成感と、慣れない環境の中で仲間と助け合って生活をしたことは一生の思い出になりました。

そしてJAFSが地域に寄り添い、共に活動してきたからこその強固な信頼関係が築かれていることに感動するとともに、熱意のこもった活動の大切さを学びました。

私たち「かんでんNGOネットワーク・きょうと」は、引き続き国際ボランティア活動を通じた息の長い支援活動を行っていくとともに、一人でも多くの組合員に日本では決して得られない経験を提供できるよう取り組んでまいります。

（かんでんNGOネットワーク・きょうと　第5次植林ワークキャンプ団長　樋口 真也）

マロンパティの命をつなごう

比パンダン　環境保全へ青少年サマーキャンプ

フィリピンのパナイ島パンダンで6月15～20日に、環境保全のための青少年サマーキャンプがアーボリータム自然公園で開催され、地元の人たち7～20歳の41名が参加しました。

▲みんなで製作した絵の前で笑顔の参加者たち＝フィリピン、パナイ島パンダン

キャンプの目的は、未来を担う青少年が持続可能な地域を創るために必要なスキル・創造性・リーダーシップを育成することです。参加者は地球の美しさを音楽やアートの創作作品で表現。次にかけがえのない水源地マロンパティの環境を守るための活動を体験。レンズを通して自然界を記録したり、自分が感じたことを伝えるジャーナリズムや、保全意識を高めるストーリー作りを学ぶなど、自然と保全の素晴らしさを探求しました。

パンダンを含むパナイ島北西部は生物多様性に富み、その美しい環境は人間や動植物に必要な空気・水・食物・生息地を与えてくれます。しかしこの貴重な生態系が、持続不可能な開発プロジェクトにより森林伐採と自然荒廃の脅威にさらされています。ビサヤンイボイノシシ、ビサヤンシカ、ネグロスハトなどの固有種は、密猟により絶滅の危機に瀕しています。

私たちＡＦＳパンダンは、パナイ島のＮＧＯであるPhilinCon と連携し今回のキャンプを開催しました。私は日本の「土と水と緑の学校」に何度か参加し、その体験やアイデアが今回のプログラムにも生かされています。

キャンプには、各学校の成績優秀者や地域活動のユースチャンピオンなど、多様な若い参加者が集まりました。意欲はあっても経済的に今まで参加できなかった人も参加できるよう、奨学生も受け入れました。参加者の興味と才能は多岐にわたり、それぞれの視点で熱心に活動に取り組みました。それを参加者皆で共有し、自然界とより深くつながる機会となりました。最終日には、環境保全に取り組む決意表明と共に、楽器演奏、朗読、壁画、美術作品、演劇などグループ独自の方法で、キャンプで学習した知識・行動・保全意識について発表しました。

キャンプを終え、参加者は強い絆を築きました。自分の地域に帰ってから環境保全活動を主導し、コミュニティに影響を与え、新たな協力者となる人材を集めていきます。

人間が快適な生活の追求を優先したことが原因で、次世代が現在危険にさらされています。私たちがただ座って待っているだけでは、世界は終わりを迎えます。勇気と信念を持って行動し、自然を保護していきましょう。

（ＡＦＳパンダン　ジェネロッサ・コンデス）

井戸を求める村の水事情

きれいな水を得るカンボジアの工夫

世界中で地球温暖化や気候変動が叫ばれ、カンボジアにおいても近年、乾季と雨季の境目がよりあいまいになり、予測のつかない天候に悩まされることが多くなりました。「今年は本当に暑く、雨もまったく降りません。村で水を得ることが難しく、例年以上に井戸建設の要請が多く深刻な状況です」。現地提携団体ＫＡＦＳ（クメールアジア友の会）のフーン・コーンさんから聞いていたものの、その現状を目の当たりにしたのは5月～7月に現地を訪れたときでした。

首都プノンペンからプロジェクト地であるタケオ州まで行く国道2号線の左右には所々に湿地帯があり、人々の生活の場や蓮の栽培地、養殖池などになっています。その水が以前に比べ明らかに少ないのです。わずかな水があるだけで、枯れてしまっているところも多く、大きな水源池の水位も下がっています。村に入ると田畑はひび割れて木々は枯れ、雑草も育たず、むきだしの茶色い土地が広がっています。村人のマブ・ブン・チュオンさんは「いつもなら5月中旬から少しずつ雨が降り始め、6月に田植えをしているが、この状況ではとても植えられない。米が取れなければどうやって食べていけばいいのか…」とため息をつきました。

▲井戸の土台作り作業をするワークキャンプ参加者と現地村人＝6月21日、カンボジア、タケオ州クバブ地区タスレン村

灌漑設備が整備され、乾季でも作物を育てている地域もありますが、支援地の多くの村は自然環境に依存する小規模な農業をおこなっており、村人たちは雨が降らなければなす術がありません。生活用水も同様です。幸いにも過去に寄贈された井戸の水は枯れず、多くの村人の命を守っていました。しかし、水源や井戸から遠く離れた場所に住む村人たちは毎日の水を得ることが難しく、多くの経済的・肉体的・精神的負担を抱えていました。

水を運んで販売している兄弟に出会いました。ため池の安全とは言えない水ですが、自力で水をくみに行けない家庭にとっては必需品で、お客さんは途切れないとのこと。しかし毎日支払いを続けられる経済状況の家庭は村では少ないそうです。

そんな中、イオングループ労働組合連合会（以下、同連合会）の4回のワーキングキャンプが5月～7月に開催され、まだ井戸のない地域に8基の新たな井戸を寄贈いただきました。

体感温度40度を超す暑さの中、様々な職種や得意分野を生かしたアイデアが取り入れられ、参加者皆で協力して作業を進めていきます。村の男性は「自分たちだけでは井戸を完成できなかった。日本人は掛け声をかけたり効率や工夫を考えて動いたり、笑顔で元気よく働く姿から多くを学んだ。これから真似していきたい」と、一緒に掛け声をかけながら汗を流しました。井戸の完成を待ちわびていた村のお母さんは涙ぐんで手を合わせ「オークンチュラン（ありがとう）」とハグを繰り返して気持ちを伝えてくれました。

同連合会のカンボジアワーキングキャンプは今年で20年を迎えました。参加者の「贈水の輪活動」への熱い思いが、カンボジアの子どもたちや村人の健康や未来を明るく変えていきます。

現地の人々と話し合い、新たに二つの取組みをおこないました。一つは気候変動に合わせ、雨季に大雨で洪水になった時に井戸が破損し水が汚染しないよう、土台の高さを建設時から上げておくことです。以前の洪水被害を教訓に土地レベルに合わせて高さを設けました。もう一つは井戸の清掃です。現状では定期的に井戸の中に人が入り、たまってくる泥などをくみ上げていましたが、時間も労力も多くかかるために、頻繁にはできていませんでした。川合鑿泉（さくせん）工業株式会社の川合千代子さん（ＪＡＦＳ会員）からアドバイスを受け、日本から持参した排水ポンプを用いた清掃方法の試行と使用方法の説明をしました。これからはより頻繁に清掃し、水質をより良く保つことができます。

カンボジアでは、２０２３年3月に日本のＪＩＣＡ（国際協力機構）支援によって「きれいで安全で安定した給水サービスが、適切な料金で提供されることにより、カンボジアの全ての人々の生活水準と公共の福祉の向上を目指す」水道法が公布されました。

また、物流の促進や水の供給、雨季の水管理などを目的として、プノンペン近郊のメコン川の支流からカンダール州、タケオ州、カンポット州、ケップ州まで全長１８０㎞の運河の建設計画も8月から始まりました。対象地の住民からは大きな期待と共に、水量・水質・生態系への影響、土地の保障、安全保障など、様々な懸念も寄せられています。

整備が進む都市部とは違い、農村部は水道法が目指す姿からほど遠い現状もありますが、安全な水の供給、その水を守っていくための活動、水・衛生・地域環境改善に関する知識や情報の共有など、次のステップに向けて両国の一人一人が行動する継続した取組みが必要とされています。

（ＪＡＦＳスタッフ　岡本 佳子）

みなさんのおかげで井戸ができた村

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

生命（いのち）の水 うるおす未来

ご寄付には税の優遇措置が受けられます

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真をお届けし、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸１基ご寄贈の場合に必要な費用■（2024年４月改定）

インド＝60～80万円　フィリピン＝45万円　カンボジア＝28万円
スリランカ＝40万円　バングラデシュ＝25万円
ネパール＝20万円（パイプライン＝25～400万円）

※現地の建設･資材費上昇により改定。３年間のメンテナンス費、現地管理費を含む。

■寄付を合わせて１基寄贈の場合 New■ 1,000円以上の任意額のご寄付で井戸建設にご協力いただけます。20万円以上のご寄付でネームプレートに記名いたします。

■お振込み先■　・郵便振替 00960-6-10835　アジア協会アジア友の会
・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会へ
☎06－6444－0587

フィリピン

村人が話し合ってできた井戸

【寄贈者】アズワン㈱ 様

ヌエバエシハ州カビアオ市コンセプシオン村
受益者：24世帯と近隣農民 計60名
井戸の形式：ポンプ式（深さ30ｍ）

近くに安全な水がなく、市販の水を買うこともできない貧しい村人の一番の望みは、安全な水が得られる井戸が村にできることでした。この度、長年の願いだった井戸が村に寄贈され、安全な水を得られるようになりました。井戸建設にあたり、村人と話し合いを重ね、多くの村人が訪れやすく、またみんなで管理がしやすい村の中心地が選ばれました。建設された井戸の水は、水質検査の結果、飲料にも適し、直接飲むことができるものと分かり、村人たちにとって大きな喜びです。

水の悩みから解放

【寄贈者】㈱トラスキー 様

ヌエバエシハ州カビアオ市サンタイサベル村
受益者：15世帯と近隣世帯
井戸の形式：ポンプ式（深さ30ｍ）

村には以前作られた古い浅井戸が1基ありましたが、水量も少なく水質も良くありません。市販の水を買う余裕も運搬手段も持たない村人は、浅井戸から得られるわずかな水を沸騰させて使っていました。村の中には私有の井戸を持つ中流以上の家庭もあり、頼んで水を分けてもらうこともありましたが、頻繁に行くと良い顔をされず、また水量が少なくなる乾季には分けてもらうこともできず、水をどのように手に入れるかが深刻な悩みでしたが、もう水の悩みから解放されました。

バングラデシュ

工場排水の被害を受けない喜び

【寄贈者】平山 隆史 様

ガジプール県ハリバリテック村ラブサルカールプ
ーバイルガジプールBDP小学校　受益者：70世帯350人　井戸の形式：ポンプ式（深さ232ｍ）

この村は工業地帯にとても近く、工場排水で川や池のみならず浅井戸も汚染されています。それでも人々は衛生的とは言えない川や池の水を飲んでいました。そのため、人々は長年にわたり、水を媒介とする様々な種類の病気に苦しんでいました。この新しい井戸が設置されてから、水を原因とする病気や健康被害が減少し、村人たちは非常に喜んでいます。今では、いつ雨が降るか心配する必要も、遠く離れた隣村に水をくみに行く必要もなくなりました。

一年中安全な水が飲める

【寄贈者】濵口みどり・喜昭 様

ネトロコーナ県ソワリカンダ村ソワリカンダ
BDP小学校　受益者：190世帯950人
井戸の形式：ポンプ式（深さ213ｍ）

近隣には川はなく、いくつかの池や水路から水を得ることができますが、この地区を貫く河川がモンスーンの時季は氾濫し、それ以外の季節は水位が下がって水が黒褐色に淀み、飲み水には適しません。

今回、BDP小学校の主な水源として、深井戸が設置されました。新しく設置された井戸は、一年中安全な飲料水を必要とする近隣の人々や遠方の村人にとって、無料で簡単に利用できるもので、住民皆とても感謝しています。

村の井戸委員会で維持管理

【寄贈者】㈱CloudLink 様

ジャマルプール県ジャミラ村ジャミラBDP小学
校　受益者：105世帯525人
井戸の形式：ポンプ式（深さ213ｍ）

長い間、不衛生な水しか手に入らなかった学校の生徒や村人たちは、新しく設置されたこの井戸から、安全な飲料水を簡単に手に入れることができるようになりました。村の人々は、子どもたちが多くの胃腸病や水を媒介とする病気にかからなくなることを願っています。

すべての生徒と保護者、教師、そして村人たちは、井戸の寄贈にとても感謝し、喜んでいます。村人たちは、井戸委員会を結成し、井戸を監視し、維持管理していきます。

バングラデシュ

子どもが病気にかからない

【寄贈者】鈴鹿 忠文 様

ジャマルプール県バイスナパラ村バイスナパラBDP小学校　受益者：92世帯460人
井戸の形式：ポンプ式（深さ207m）

新しく設置された井戸により、安全な飲料水の供給を必要としている村人や近隣の人々が、いつでも自由に簡単に水を得られるようになりました。いつ雨が降るかを心配する必要も、近隣の村や遠方まで水をくみに行く必要もなくなりました。

村の人々は、子どもたちが胃腸病や水に関連する多くの病気にかからなくなることを願っていましたが、それが実現しそうです。

BDP代表から、井戸の寄贈に感謝申し上げます。

インド

蛇口をひねればきれいな水

【寄贈者】㈱グローアップ 米田 豊・たづ 様

村の既存の水源は信頼できず、飲用には安全でない可能性がありました。そのため、住民、特に女性や子どもたちは、安全な水を得るのに多大な時間と労力を費やしており、大きな負担となっていました。

電動モーターを備えた井戸が導入されたことで、水くみに大きな変化が起きました。蛇口をひねればすぐに、きれいな水が安定して供給されるようになり、水くみの負担が軽減され、住民は他のことに時間とエネルギーを割くことができるようになりました。

マハラシュトラ州アムラワティ県ジャムリー村
受益者：300人
井戸の形式：ポンプ式（深さ103m）

ネパール

自分の家で水がくめる

【寄贈者】堀 朗生 様

シンドゥパルチョーク郡インドラワティ農村型自治体10地区ボテシパ村　受益者：6世帯
井戸の形式：水道パイプライン式

一家で毎日最低100リットルの水は必要で、家族が多いので必要な水の量も水くみの回数も多かったのです。それが、今日から自分の家でくむことができます。排水された水は自動的に畑の方に流れていきますので、畑にも水を有効に使えます。子育て中なのでこのような生活環境になったことがうれしくてたまりません。この夢のような現実が、私たちの日常にやってきたことに、6世帯全員から心より御礼申し上げます。生活の場に、安心して飲める水がある暮らしができます。

ネパール

集落全体に水道を目指す

【寄贈者】小原 純子 様

山間部にある集落で、日々の水に困窮しており、女性たちが365日水くみに多くの時間を費やしていました。集落全体の水環境改善を目指して水道を設置することになり、まず6世帯に完成しました。これまで水は時間をかけてくみに行かなければならないものでしたが、すぐ近くでくめるようになり生活が激変したと、各世帯の女性たちから大きな喜びの声が届きました。これからキッチンガーデン作りで家族に栄養ある食事を作りたいと、今後の生活に期待をふくらませています。

シンドゥパルチョーク郡インドラワティ農村型自治体10地区ボテシパ村　受益者：6世帯
井戸の形式：水道パイプライン式

一つの井戸から蛇口10個へ

【寄贈者】京都暁星高校 様

シンドゥパルチョーク郡インドラワティ農村型自治体9地区シパタール村　受益者：30世帯215人　井戸の形式：集水パイプライン式

井戸ができる前、村は深刻な水不足に直面していました。水くみのために、何マイルもの道を、2つの水瓶を背負って毎日3～4回往復することが通常でした。井戸の建設が決まった後、ロックダウンのため建設はスムーズに行きませんでしたが、ついに完成しました。この井戸から、季節に関係なく、十分な量の水を得ることができるようになりました。井戸には10個の蛇口がついており、だいたい3世帯が蛇口1つを使用しています。この井戸で村の生活が大きく向上しました。

小学校の水道で飲み水・トイレ

【寄贈者】京都暁星高校 様

ジョロンゲ集落の子どもたちが通う小学校ですが、規模が大変小さいため学校の環境整備が進んでいませんでした。そのため子どもたちが使う水道設備も十分になく、トイレも使用できない状況でした。子どもたちの健全な育成のために、一日も早い水環境整備が求められていました。この度のご支援により、子どもたちは学校で衛生的な水が飲め、手を洗ったり、清掃活動に取り組めるようになり、安心と潤いがある学校生活が、生徒・教師ともに送れるようになりました。

シンドゥパルチョーク郡インドラワティ農村型自治体10地区スリースルヤダヤ小学校　受益者：80人　井戸の形式：集水パイプライン式

JAFSプラザ

国内活動

国内外のさまざまなイベントをHPに載せています。記事についてのお問い合わせはJAFSへ＝裏表紙にアドレス、連絡先

渓谷で命の洗濯

参加費が「アジアフレンドシップ夢基金（アジアの人々の福祉向上のための基金）」の協力につながる「JAFS歩く会」も今回で28回目。

6月20日に兵庫県の武庫川渓谷を9名の参加でハイキングしました。JR福知山線生瀬駅に集合し、渓谷に沿って歩きました。

1986年の福知山線複線化にともない放置されていた単線の線路は、2016年にウォーキングコースとして整備されました。水量豊かな武庫川渓谷を眺めながら、枕木の残る道を歩き、真っ暗なトンネルは懐中電灯で進みました。鉄橋を渡ったり、渓谷の奇岩に感心したり、春は桜も楽しめるようです。6月ですが、さいわい雨にも降られず、ちょうどよい曇りで景色を楽しみつつ気持ちよく歩くことができました。途中、仲間からのサクランボの差し入れがおいしかったこと！ 午後の出発でしたが、4時前には武田尾駅に到着し、コーヒーとお菓子で休憩。

平日のせいか会う人も少なく、都会の喧騒を忘れて新緑と渓谷の水音に目と耳を癒されつつ、おしゃべりしながらのんびり歩いて心洗われた一日でした。ああ、いのちの洗濯。

（JAFS会員　福井 えり）

京の厄除け参りで苦しみからの救済願う

京都地区会では、6月29日に16名の参加でチャリティウォークを開催。行事開催前には、新聞社へ掲載のお願いに訪問していますが、今回はその掲載記事を見ての参加者が5名おられ、新しいつながりを広めることができました。梅雨時期の真ん中でしたが、丁度晴天で気温も上がり、熱中症が心配な程でした。

京都市の北部船岡山あたりは、平安時代から「蓮台野（れんだいの）」と呼ばれる庶民の風葬の地でした。そのこともあってか、昔から病気や悩み事など現生の苦しみからの救済を願う場所が点在しています。そんな社寺を訪ねて「今に続く人々の願いや祈りに思いをはせましょう」をテーマに『京の厄除け参り・北野天満宮界隈』と銘打って行いました。

千本閻魔堂（引接寺）、釘抜地蔵（石像寺）、千本釈迦堂（大法恩寺）、上七軒あたり、北野天満宮（＝写真）、大将軍八神社を、小島さん（京都検定1級）のとてもわかりやすいガイドで巡りました。非常に狭いエリアの中に特徴のある平安時代からの神社仏閣が点在しており、古都京都を再認識することができました。

最後は、柳井一朗JAFS理事が牧師をされている洛西教会へ立ち寄り、冷たいお茶と、会員の福井えりさん手製の和菓子「水無月（なごしのはらえ）」（京都では、毎年6月30日に夏越祓として水無月を食べる風習がある）をいただき、皆さんとの交流を深めることができました。私たちの支援を待っているアジアの子どもたちへの継続的な支援に向けて、今後とも活動を進めていければと思っています。

（京都地区会会長　辻 賢二）

歌声で健康増進

奈良県生駒市と岡山県備前市で毎月1～2回、地域交流会として歌声サロンをしています。マイクを使わずに、童謡・唱歌・昭和歌謡曲などを思いっきり大きな声で歌っています。全体のハーモニーを考えることなく、息を吐いて～吸って～を繰り返し、横隔膜と肺の筋肉を動かしています。

60歳台は若者で、70～80歳の方々が、来た時よりも晴れやかになって帰宅されます。手を挙げて好きな曲をリクエストすることから勇気を出すのです。時々、ハーモニカ・ギター・ウクレレ・ヴァイオリン・ハープなどの参加もあり、皆さまと音楽を楽しんでいます♪ 年に何回か、市の行事などにも参加し、大きな舞台にも立っています。

（JAFS歌声サロン　鳥居 京子）

みんな参加の音楽会

6月16日にJAFS高槻主催で、初の参加型音楽会「みんなで音楽を楽しもう！」を、アジアの子ども支援目的で開催しました。当日は、ピアノ、フルート、ウクレレなど様々な楽器を7グループ15名が各々演奏しました。

特別ゲストは私でスピーチとピアノ演奏（ベートーヴェン「月光」）を披露＝写真。大阪府池田市で定年まで消防士を務める傍ら、40歳でトライアスロン、53歳でピアノを始め、「海を見ながらピアノを弾いてみたい」との思いから、トラックにグランドピアノを載せて全国縦断の旅をしました。寝場所はピアノの下なので「グランドホテル」と称していました。平和で安全な日本に生まれてこのような旅ができたこと、皆様と共に音楽を楽しめたことに感謝しています。

（JAFS高槻世話人　猪口 薫）

アジア市民大学をふりかえって～動向と展望

JAFSアジア市民大学は、2019年1月から第1期を開始した。この講座の特色は、JAFSの活動に資するように、講師の講演に引き続き、毎回90分を超える討論の時間が設けられ、単なるアジアの知識だけでなく、アジアの人々の「心」「生きざま」までも熱く議論されており、「一味ちがう」セミナーが展開されている。

ここでアジアの動向と展望を論じたい。アジアはユーラシア大陸の面積の大半を占め、世界の4大文明のうち、3つも発生している。世界のGDPを見ても産業革命の19世紀までは圧倒的にアジアが優勢であったが、それ以降はアジアの大半は欧米の植民地となった。第2次大戦後、多くのアジアの国は独立して目覚ましい躍進を示し、アジアの経済復権の兆しが見えてきた。

日本は、アジアでいち早く産業革命を遂げ、第2次大戦で敗戦するも、その後高度経済成長により、先進国となった。バブルが崩壊後、少子高齢化と経済の停滞に苦闘している。

中国は第2次大戦後の1949年、中華人民共和国を樹立。集権的社会主義体制に向かった。1960年代半ばからの文化大革命後、1978年以降「改革開放」の方向に転じ、外資・技術の導入により「世界の工場」と称される経済の躍進が見られ、2013年からは、インド、東アフリカ、さらには北極海をも見据えた「一帯一路」という従来のシルクロードを凌駕する構想（中華思想の実現）に燃えている。

東南アジアでは、1966年にタイ・ベトナムなど5カ国（現在10カ国）がASEANを結成した。それぞれ外国からの企業誘致などにより、中国やアメリカなどの干渉を避け、サプリージョン（小地区）としての発展を遂げてきた。しかし最近、大国からの干渉・軋轢（あつれき）により亀裂が生じてきている。

2022年からのロシアのウクライナ侵攻後、中央アジアではその豊かな資源をめぐって大国から争奪のせめぎ合いが生じている。西アジアでも、2023年からのハマスのイスラエル攻撃に端を発した戦争など、不安定な国際情勢となっている。

JAFSアジア市民大学の講座は、政治・経済だけでなく、アジアで暮らす人々の生業・生活・信条・文化・教育などの理解を深める目標も掲げており、平和・人類愛に満ちたセミナーを目指している。今後、共同研究・出版・シンポジウムの開催など一層、活動の輪を広げたい。

（JAFS理事・アジア市民大学学長　實 清隆）

ＪＡＦＳチャリティイベントカレンダー

2024年秋

月	日	地域	行事名	時間	実施場所	参加費	内　容
10月	4日（金）	生駒市	アイビー歌声サロン　in生駒	15:00～16:30	生駒市ISTAはばたきリハーサル室　近鉄けいはんな線白庭台駅または北生駒駅から徒歩10分	700円	腹式呼吸を目指し、出席者からのリクエスト曲をキーボード生演奏で、皆さんと一緒に歌います。●窓口：有山加代子　090-8377-5151
	5日（土）	西区	JAFS地区会長・世話人会&新入会員ウェルカムパーティ	10:00～13:45	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	1500円（新入会員は1000円）	各地区会の会長･世話人が一堂に会し、各地区の活動を報告。また新たな活動について話し合います。続いて新入会員ウェルカムパーティ（11:40～）を開催。12:10からの交流会では、お互いの親睦を深めます。●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	5日（土）	西区	JAFS国際ネットワーク支援会「シニアおしゃべり畑」	14:00～16:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	1000円	これまで培ってきたアジア18ヶ国との絆を次世代へつなげる若者を育て、応援する為の知恵を持ち寄るおしゃべり会です。 ●窓口：大仁・佐藤 06-6444-0587
	8日（火）	西区	第416回JAFSぞうすいの会 スリランカ　女性のエンパワーメントプロジェクトについて	12:00～13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	9月にスタッフが訪問したスリランカの最新事情について報告します。ぞうすいを食べながらアジアへの井戸支援を行います。 ●窓口：事務局 柿島 06-6444-0587
	8日（火）	西区	ワンコインセミナー「カバラ数秘術」	13:15～13:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	講師：土本花ず子　自分が生まれてきたのは、なぜこの親を選んだのか？今世の生きる課題を知ることができます。●窓口：事務局 鳥居　090-5663-6123
	8日（火）	西区	ワンコインセミナー「歩いて元気になろう会」	14:00～14:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	講師：前田隼矢　歩きは運動の基本。正しい歩き方をすると身体は心地よく感じ、元気になるようにできています。手軽な体操を交えて、正しく心地よい歩き方を身体に染み込ませましょう！●窓口：事務局 鳥居　090-5663-6123
	8日（火）	西区	ワンコインセミナー「ハープセラピー」	14:45～15:25	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	講師：辰巳理華　ハープの音に癒されながら、リラックスして、呼吸を整えて、今、自分が置かれている環境に感謝してみませんか？●窓口：事務局 鳥居　090-5663-6123
	8日（火）	西区	ワンコインセミナー「スマホ教室」	15:30～16:10	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	講師：土本花ず子　目から鱗の！ご自身で撮影した写真がなんとステキな画像になります。楽しんで作成しましょう！持ち物：スマホ●窓口：事務局 鳥居　090-5663-6123
	8日（火）	西区	ワンコインセミナー「バルーンアート講習会」	16:15～16:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	講師：谷阪洋子　風船で犬･キリン･キティちゃん･トトロ･くまモンなどのキャラクターや季節のグッズを一緒に作りましょう！！　●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	8日（火）	西区	ワンコインセミナー「韓国語＆韓国舞踊」	17:00～17:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	講師：中川　葉子　　韓国伝統舞踊を踊ろう！！韓国舞踊家の指導でみんなと踊ってみましょう！！●窓口：事務局 鳥居　090-5663-6123
	12日（土）	西区	第6期JAFSアジア市民大学　第1回 シンガポールとベトナムから見たアジアの未来への想像から創造へ	14:00～16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	一般 2400円　会員 2000円 学生無料	日越大学・ハノイ国家大学客員教授の桂良太郎氏がベトナムとシンガポールの社会福祉の最近の現状からアジアの未来について語ります。●窓口：事務局　柿島　090-1021-6834
	13日（日）	生駒市	チャリティ・ライブ＆マルシェin生駒	11:30～15:30	生駒コミュニティセンターセイセイビル1階　セイセイホール 近鉄奈良線・けいはんな線生駒駅南口よりすぐ	前売2000円(500円金券付き) 当日2500円	アジアの多彩な歌・踊りを楽しみながら、美味しい料理をいただき、バザールも楽しんでアジアの人たちと楽しく交流しましょう。　＊留学生・障がい者・小学生1,000円（500円金券付き）　●窓口：野池 090-4294-5872　鳥居 090-5663-6123
	14日（月祝）	天王寺区	第5回日本語スピーチコンテスト	14:00～16:30	クレオ大阪中央（大阪市立男女共同参画センター中央館）セミナーホール　大阪市天王寺区上汐5-6-25　大阪メトロ谷町線四天王寺前夕陽ヶ丘駅より徒歩10分	チャリティ参加費1000円 留学生無料	毎年恒例の日本語スピーチコンテスト。今年は留学生の部と社会人の部の2部構成で開催します。「日本に来て思ったこと、感じたこと」などのテーマで率直にスピーチします。留学生と交流できる絶好の機会ですので、ぜひお越しください。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	17日（木）	京都市	第30回JAFS道楽の会ウォーキング	10:30～16:00	10；30京都市営地下鉄東山駅集合	1000円	平安神宮から霊山歴史館にある坂本龍馬の墓まで歩きます。ウォーキングに参加することでアジア支援のチャリティ募金を行います。　●お申込：石原 090-1134-3085
	19日（土）～21日（月）	スリランカ	第31回アジア国際ネットワークセミナー	18日(金)集合～22日(火)解散	スリランカ・バンダラガマ サルボダヤ高等学習センター	13万円（予定）＋航空運賃	コロナ禍で開催できなかったアジア国際ネットワークセミナーをAFSスリランカがホストとなり4年ぶりに開催。セミナーは3日間。主なテーマは「地球規模の温暖化とその対応を考える」。各チャプターより代表とユースメンバーが一堂に会して会議と交流を行います。3日目にはコロンボ観光などもあります。●窓口：事務局柿島　090-1021-6834
	19（土）	関東	能登半島地震被災者支援のための JAZZピアノコンサート ～竹中 真 チャリティLive in 久我山教会	14:00～15:40	日本キリスト教団久我山教会 京王井の頭線久我山駅より徒歩6分	前売 一般2500円 学生2000円 ペアチケット4000円　小学生以下無料	いまだ復興の途上にある能登半島地震被災地支援のためのチャリティJazzコンサート。日本の唱歌やポップスなどをアレンジしたメロディーが満載のジャズ初心者も楽しめる竹中真さんのピアノライブです！収益は、能登半島地震の被災者の支援に充てられます。●お申込：JAFS関東活動委員会 川崎 080-2041-0505　jafskanto@gmail.com
	24日（木）	備前市	第37回アイビー歌声サロン　in日生	14:30～16:30	岡山県備前市日生町日生2219-4 元パール美容室	500円	第1部 14:30～14:50　歌に合わせて手話をしましょう　第2部 15:00～16:30　リクエスト形式でみんなで楽しく歌いましょう　●窓口：鳥居 090-5663-6123
	26日（土）	西区	トルクメニスタン留学生のお話を聴く会	14:00～15:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	1500円（お茶・お菓子付）	トルクメニスタン留学生エルゲショヴァ・アイラルさんから中央アジアの知られざるトルクメニスタンのお話をお聴きします。●窓口：トルクメニスタンの風　森崎 090-5326-3809　後援：JAFS
11月	2日（土）	平野区	JAFSなにわ南地区会主催　第9回ノアノアフェスタ「さくらいりょうこさん 心を揺さぶる講演会＋オカリナ演奏」	10:30～14:15	〒547-0012大阪市平野区長吉六反3-1-32　アークショップノアノア　（大阪メトロ谷町線長原駅より徒歩約8分）	1500円（昼食付）	ノアノアカフェにて、難病と闘いながら1500回に及ぶ講演を行い多くの人たちに生きる感動を与えているさくらいりょうこさんの講話「生きるを考える～生きると決めた日、運命が変わりはじめる」と素敵なオカリナ演奏をお聴きします。●窓口：柿島 090-1021-6834
	2日（土）	西区	JAFS国際ネットワーク支援会「シニアおしゃべり畑」	14:00～16:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	1000円	これまで培ってきたアジア18ヶ国との絆を次世代へつなげる若者を育て、応援する為の知恵を持ち寄るおしゃべり会です。●窓口：大仁・佐藤 06-6444-0587
	3日（金・祝）	京都市	kokokaオープンデイ2024 活動紹介ブース出展	10:00～16:00	kokoka京都市国際交流会館 京都市左京区粟田口鳥居町2－1 一般用駐車場	無料	ボランティア団体等の活動紹介を通して、来場者に社会や世界とのつながりを感じて、様々な取り組みや活動の場を知ってもらうイベントです。万国屋台村やステージ、スパイスマーケットもあります。JAFSの活動紹介もします。当日お手伝いいただくボランティア大募集中。
	9日（土）	西区	座談会「アジアの仲間」	13:00～15:00	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	500円 定員12名	ベトナム人留学生チンさんを囲んでベトナムの文化や日本との違いについておしゃべりします。＊チンさんは10月14日(祝)の第5回日本語スピーチコンテストの司会者です。 ●窓口：事務局 佐藤 06-6444-0587
	9日（土）	西区	第6期JAFSアジア市民大学 第2回　台湾観光の風景に刻み込まれた日本統治期の痕跡	14:00～16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	一般 2400円　会員 2000円 学生無料	立命館大学文学部名誉教授の藤巻正己氏が、帝国日本に50年間植民地統治された台湾の様々な遺構について解説しながら、台湾の歴史と政治・社会状況を考察します。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	12日（火）	西区	第４１７回JAFSぞうすいの会	12:00～13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	最近のアジアの現況を、スタッフまたはアジアからの留学生が報告します。ぞうすいを食べながらアジアへの井戸支援を行います。 ●窓口：事務局　柿島　06-6444-0587
	12日（火）	西区	ワンコインセミナー「カバラ数秘術」	13:15～13:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	内容は10月8日（火）の同イベント欄をご覧ください。
	12日（火）	西区	ワンコインセミナー「歩いて元気になろう会」	14:00～14:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	内容は10月8日（火）の同イベント欄をご覧ください。
	12日（火）	西区	ワンコインセミナー「健康麻雀」一人ひとり自分の判断で勝負する。	14:00～14:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	講師：野池 徹　ルール･役･点棒計算をもとに、一局を一人で打つ実戦。順位付けし自分の戦略戦術を反省しまた実戦。実戦の繰り返しの中で自分の見方、考え方、戦い方を確立していきます。 ●窓口：事務局 鳥居　090-5663-6123
	12日（火）	西区	ワンコインセミナー「川柳」	15:30～16:10	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	講師：野池 徹　世界一短い詩、五七五。17文字の芸術。人生再発見でき、ワクワク。ドキドキ、時にハラハラの人生が送れ、若返ります。●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	12日（火）	西区	ワンコインセミナー「バルーンアート」	16:15～16:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	内容は10月8日（火）の同イベント欄をご覧ください。
	12日（火）	西区	ワンコインセミナー「韓国語＆韓国舞踊」	17:00～17:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	講師：南姃秀(ﾅﾑ ｼﾞｮﾝｽ)　韓国伝統舞踊を踊ろう！！韓国舞踊家の指導でみんなと踊ってみませんか！！韓国語を学んでみませんか！！韓国人講師の指導で韓国語文法や会話を学びます。　●窓口：事務局 鳥居　090-5663-6123
	21日（木）	奈良県	第３１回JAFS道楽の会ウォーキング	11:00～16:00	11:00　近鉄南大阪線　二上山（にじょうざん）駅集合	1000円	奈良県葛城市の當麻の里周辺を歩きます。ウォーキングに参加することでアジア支援のチャリティ募金を行います。●お申込・お問い合わせ：石原 090-1134-3085
	23日（土・祝）	京都市	バザールカフェ　フィエスタ	13:00～16:00	京都市上京区岡松町258 tel：075-411-2379 京都駅・阪急烏丸から地下鉄烏丸線で「今出川」下車徒歩５分	無料	毎年恒例のバザールフィエスタ、今年も開催！アジア・中東各国料理、雑貨、音楽…国籍も宗教も年齢も性別も越えて、みんなでつくるフィエスタです。京都地区会が出展します。当日ボランティア大募集中！
	23日（土）o r30日（土）	江戸川区・川市	ブルーオーシャン作戦「日本とアジアをつなぐビーチクリーン」～海のプラごみを減らそう	10:00～12:30	二色の浜公園（大阪府貝塚市）、葛西臨海公園（東京都江戸川区、予定）、フィリピン・インドネシア（オンライン）	300円 大学生以下無料	海洋プラスチックごみを減らして、地球と地域をきれいに！海でつながるアジアの仲間と一緒にビーチクリーン活動しましょう。●詳細問合せ先：事務局 川本 06-6444-0587
12月	7日（土）	平野区	JAFSなにわ南地区会主催 第10回ノアノアフェスタ ノアノアカフェクリスマスパーティ	10:00～14:00	〒547-0012大阪市平野区長吉六反3-1-32　アークショップノアノア　（大阪メトロ谷町線長原駅より徒歩約8分）	1500円（昼食付）小学生以下・障がい者は無料	なにわ南地区の活動拠点であるノアノアカフェで、子どもたちも招いて楽しいクリスマスパーティを開催します。共に心豊かなときを過ごしましょう。●窓口：JAFSなにわ南　柿島　090-1021-6834
	7日（土）	西区	JAFS国際ネットワーク支援会”シニアおしゃべり畑”	14:00～16:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	1000円	これまで培ってきたアジア18ヶ国との絆を次世代へつなげる若者を育て、応援する為の知恵を持ち寄るおしゃべり会です。　●窓口：大仁・佐藤 06-6444-0587
	10日（火）	西区	第418回JAFSぞうすいの会	12:00～13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	最近のアジアの現況を、スタッフまたはアジアからの留学生が報告します。ぞうすいを食べながらアジアへの井戸支援を行います。 ●窓口：事務局　柿島　06-6444-0587
	10日（火）	西区	ワンコインセミナー「カバラ数秘術」	13:15～13:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	内容は10月8日（火）の同イベント欄をご覧ください。
	10日（火）	西区	ワンコインセミナー「歩いて元気になろう会」	14:00～14:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	内容は10月8日（火）の同イベント欄をご覧ください。
	10日（火）	西区	ワンコインセミナー「健康麻雀」一人ひとり自分の判断で勝負する。	14:00～14:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	内容は11月12日（火）の同イベント欄をご覧ください。
	10日（火）	西区	ワンコインセミナー「川柳」	15:30～16:10	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	内容は11月12日（火）の同イベント欄をご覧ください。
	10日（火）	西区	ワンコインセミナー「バルーンアート」	16:15～16:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	内容は10月8日（火）の同イベント欄をご覧ください。
	10日（火）	西区	ワンコインセミナー「韓国語＆韓国舞踊」	17:00～17:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	内容は11月12日（火）の同イベント欄をご覧ください。
	14日（土）	西区	第6期JAFSアジア市民大学 第3回インドには勝てない「最強国家の実力」	14:00～16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	一般 2400円 会員 2000円 学生無料	元NHKニューデリー支局長で関西日印文化協会副会長の広瀬公巳氏が世界一の人口大国インドについて経済等の外からの視点だけでなく内情の最新情報も交えてインドの今をわかりやすく伝えます。 ●窓口：事務局柿島　090-1021-6834
	22日（日）	天王寺区	第9回　アジアン・チャリティ・フェスティバル【共催】大阪国際交流センター	11:00～17:00	大阪国際交流センター 2階大会議室さくら、2階各会議室（大阪メトロ谷町線・千日前線　谷町九丁目5番出口より600m、近鉄　大阪上本町14番出口より400m）	チャリティ前売入場券1000円(当日券1500円)	外国人を含むLDGTメンバーによるファッションショーはじめ、各国の民族音楽・舞踊など国際色豊かな多彩な舞台とアジア雑貨などのお店、飲食を楽しみながら、在関西のアジア系市民・留学生とゲームなど通して広く交流します。　●窓口：アジアン・チャリティ・フェスティバル実行委員会 TEL:06-6444-0587
2月	20日（木）～27日（木）	インドネシア	インドネシアの教育と環境を実感するスタディツアー	現地集合・現地解散	◇ジャワ島　南タンゲラン･ひかりスクール(交流･クリーン活動･クッキング･宿泊)、ジャカルタ(観光)　◇バリ島　マングローブ林(植林･クリーン活動･海がめ放流)、大学(交流)　など	110,000円（渡航運賃や海外旅行保険料など別途）	◇経済発展途上のインドネシアを訪れ、その実情を、教育と環境の観点から見て学び考えます　◇国の今後の成長を支えるインドネシア大学生や子どもたちと交流します　◇ジャワ島とバリ島で、街も自然豊かな村も海も山も訪れます　◇環境改善のための現地の活動に参加します　●詳細問合せ先：事務局 川本 06-6444-0587

●緑とふれあう農園の作業日

＜場所＞ JR星田駅より徒歩8分　　10/12（土）、10/26（土）、11/9（土）、11/23（土）　午前8時～11時
12/14(土)、12/28(土)、1/11（土）、1/25（土）、2/8(土)、2/22（土）　午前9時~12時

＜内容＞ 季節の野菜を植えて育てます。緑を育てる楽しさを共に分かち合いましょう！はじめて参加される方は事前連絡ください。

❤「もったいない」の きもちを社会貢献へ❤

JAFSでは以下のものを集めています。ぜひ、ご協力をよろしくお願いいたします。

○書き損じハガキ、切手(未使用･記念切手可)、外貨コイン：　事務局の通信や、JAFSの活動に使わせていただきます。
○服、アクセサリー、カバン等　：　買ったけど数回しか使っていない。でも捨てられないものありませんか。

お問い合わせ　06－6444－0587　JAFS事務局

新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。（敬称略・50音順）
2024年6月1日～8月31日

●維持会員
小森薫／深井泰樹

●ジュニア会員
林幸衣

●里親会員
水島真由美

会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。（敬称略・50音順）
2024年6月1日～8月31日
なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

●社員会費
池田直樹／市川晃／奥田順／小原純子／小原孝彦／柏木道子／金井英夫／川本裕子／暮部恵子／㈱グローアップ／小林道明／金剛一智／﨑野哲史／實清隆／清水茂實／〆木泰輔／末広真樹子／田島高広／鳥居宗子／永島智子／中西武雄／根津千枝子／福澤邦治／福岡名津子／福岡好嗣／藤原道子／船戸康夫／南野紀美子／宮川眞一／森梢／谷津都萌子／山田啓輔／吉田幸子／吉田俊朗／吉田暢子／芳野徳洋／渡辺治彦／渡邊瑠璃子

●維持会費
赤野孝一／天野澄子／荒川雄毅／有山加代子／池谷和博／石黒大圓／板谷静夫・博子／一瀬由起子／猪口薫／魚森清恵／江川美知子／大木洋子／大須賀丕出子／大山愛子／岡本朋子／尾﨑幸子／小田辺朋子／蔭山征宣／風早正夫／川崎献一／川﨑なおみ／川副竹善／岸久子／桐間郁子／日下千代子／栗山拓／甲北病院／坂上やよひ／坂本美津子／佐藤正明・潤子／塩谷真人／篠塚達朗／正法地圭／正法地真理子／鈴木浩／大仁孝太郎／高橋町子／竹中有香子／巽正憲／田中守／谷山祐子／丹治純子／出野聡司／中尾巧／中川寛子／中路信子／中谷誠／西尾恵美子／西村清美／西村秀明／濵﨑佳尚／日阪栄子／久冨雅之／廣田恵美／深田陽一／堀内眞弓／本田伸一／前野芳子／増田愛子／三木信子／三雲孝／水野礼子／三宅律子／村田恭仁子／森わか子／森山涼子／横手美知代／吉田京子／吉田敬市／和田秀一／和田義次

●賛助会費
天津貴志／粟野アツ子／安藤幹雄／安藤理恵／板原操／市來伴子／稲田伊智子／井上知紀・植村史子／宇田義徳／内野清子／延増保宣／大岩典代／大門吉俊／大澤淑／大谷保男／大林昌子／大山利子／岡部雅子／岡本眞理子／小川雄也／荻原万紀子／沖本加代子／小原俊之／加藤浩輔／金本秀紀／鎌田勝江／亀澤広美／河合典子／川瀬真知／川村忠／上林喜久郎／北崎忠良／木原輝子／際本多市／久保佑治／クンバールカイラーシュ／輿水飛鳥／小寺信子／後藤理紗／小松良一／小美野広行／昆由香／権藤恒安／斉藤修一／佐々木健児・ゆみ子／佐藤小苗／佐藤雅美／佐藤美千代／三本松三津江／品川壮／篠田京子／庄子幸子／仁義修・千春／杉本明子／杉本みゆき／瀬田敦子／高澤美貴／高瀬規佐江／高橋温子／瀧川真紀／立田康雄／田辺麻里／谷口辰雄／TRANVINHMI／長知子／坪田由紀子／寺田真理子／寺林公子／永井博記／永井三千彦／中川裕己彦／中川佳子／永菅裕一／楢崎しのぶ／難波正明／西林文／二野英子／能勢圭子／服部健史／服部美代子／花房逸子／林芙美子／原京／兵頭里美／平原榮子／福岡哲郎／藤岡朋子／藤田知子／藤本夕衣／藤原和子／古林由希子／㈱ボックス／堀正之／堀江直／前田拓／柾本俊晴／松野光伸／水江美保／溝上富夫／溝口竜太郎／三田村英宗／宮川真理／武藤美也子／村井昇／森惠美子／森正廣／森川佐和子／八木祐子／柳大路功／山尾修／山川清／山口公子／山田俊朗／山本正美／吉田大作／吉原香保里／吉原香保里／若杉徹朗／和田隆義

●ジュニア会費
林幸衣

●団体会費
㈱クオリティデザイン／大成印刷㈱／寝屋川教会賛助会／（一社）はたらく馬牧場／パナソニックインダストリー労働組合

●法人賛助会費
イオングループ労働組合連合会／イオンリテールワーカーズユニオン／（社福）一粒福祉会／㈱ウォーターネット／㈱かんぽう／㈱京進／ソフトキューブ㈱／㈱ツールオカフジ／㈱デュアルエデュケーション／パナソニックホールディングス㈱企業市民活動企画課／㈱ピケンテクノ／ユニチカユニオン／日本労働組合総連合会大阪府連合会

●里親会費
明見勝好／石原基義／一瀬由起子／井上修二、晶子／今井田尚久／上田慎子／大川愛子／大水光美／岡部雅子／鹿島恵美／柏木道子／鎌田勝江／川岸幸恵／川崎隆二／北原祐司／倉野茂樹／小西麻由子／今野裕章／佐藤道代／塩谷真人／下村蓮実／白石敦士／高山恵理子／田中和子／東代清隆／戸塚恭子／西優子／西澤純／西山美菜子・千晶・敦記／林芙美子／ピグマリオン学院奈良教室／久冨雅之／檜原敏之／平井静／平瀬美智子／福岡名津子／本田伸一／水島真由美／南貴子／武藤英利矢／森惠美子／安永拓史／山尾修／山川清／山中康／横手美知代／吉田幸子／吉田暢子／吉松浩一／渡部司

●一般寄付
熱田親憙／池田直樹／市川晃／イトウジュネ／稲垣輝義／大久保勝則・洋子／小原純子／金井英夫／兼松利木雄／岸本和彦／KinoshitaJuri／㈱グローアップ／桒村壽子／小沢良典／坂口馨子／櫻井紘哉／櫻本貴之／佐藤文昭／佐野光彦／實清隆／〆木泰輔／杉崎仁志／ソフトバンクつながる募金／舘野晶光／辻本健二／鳥居建十／長澤貴子／永島智子／西田貞之／福澤邦治／伴香保理／藤原正昭／眞砂哲志／宮川眞一／宮田安希子／宮野谷篤／村上公彦／森美鶴／柳井一朗／大和キリスト教会支援委員会／山本宏昭／横瀬雅人／吉田俊朗／渡辺治彦／本山和幸

●井戸指定（水支援）
大阪マラソンチャリティー／大山行雄／蛯名健仁／川本順子／角英樹／ボスコ幸希／松久敏彦

●井戸建設積立
（一財）H2Oサンタ／JAFSぞうすいの会

●井戸建設指定
○インド
前田みどり
○カンボジア
イオングループ労働組合連合会／マックスバリュ西日本労働組合／㈱渡すい住設
○スリランカ
OSGコーポレーション青樹会／前田みどり
○ネパール
㈱グローアップ／東代清隆／吉川りょう
○バングラデシュ
㈱グローアップ／大阪府立天王寺高等学校TAN／前田みどり
○フィリピン
前田みどり

●アジア・ネットワーク奨学会費
上野孝一／村上公彦

●アジア・フレンドシップ夢基金
JAFS歩く会／鳥居京子／鳥居建十／日生地区会／福岡名津子／夢基金支援会

●アジア・子ども支援
宇治教会／松尾慶治

●インド・HIV子どもと家族支援
戸田恭子

●コスモニケタン指定寄付
甲北病院／戸田恭子

●スリランカ・サルボダヤ支援会費
小澤勇

●スリランカ指定寄付
岡本朋子

●ネパール・バイオガス寄付
設楽宏幸

●ネパール・ピトゥリ基金・支援
熱田典子／大谷英二／大谷臣子／小川幸子／倉光和之／小松朱美／前田美津代／前田豊／マッララジャンマン／吉川照代

●ネパール栄養改善教育支援
大阪友の会／東代清隆／ネパールヨードを支える会／JAFS枚方・寝屋川地区

●フレンドシップ国際基金（ネットワーク支援会）
明見睦子／小原純子／中川秀臣／大仁孝太郎／西川京子／村上公彦／毛利吉男／地球幸せ募金
小代利子

●ウクライナ緊急支援活動寄付
大岩典代／鍛治良祐／粕谷香代子／坂本浩一／菅洋子／瀧川真紀／千歳第2幼稚園／直の会土居止戈代／加納道代／前田恵美子／村山邦彦／RamonVendrellGali／和田幸子／渡辺治彦

●ネパール・ジャジャルコット地震被災者支援寄付
大岩典代／鍛治良祐／粕谷香代子／坂本浩一／島津博義／菅洋子／前田恵美子／村山邦彦／RamonVendrellGali／和田幸子／渡辺治彦

●能登半島地震被災地支援
有田稔／戎野博太郎／大岩典代／鍛治良祐／粕谷香代子／小林道明／坂本浩一／作田和彦／設楽宏幸／島津博義／菅洋子／田川久美／千歳第2幼稚園／仁井恭子／藤原さくら／前田恵美子／溝渕むつ躬／村山邦彦／RamonVendrellGali／和田幸子／渡辺治彦

●東日本大震災復興支援寄付
東代清隆

●助成金／補助金
○ネパール栄養改善
（一財）ゆうちょ財団
○能登地震
㈱大塚商会ハートフル基金事務局

●集めるキャンペーン・物品寄贈
乾聖陽／岡田光浩／亀田喜八郎／坂口馨子／高畑千代子／中井道治／成瀬／㈱風光社

新役員紹介　（2024 ～ 2025年度）

(公社)アジア協会アジア友の会 第13回社員総会（6月8日開催）にて、2024～2025年度の新しい理事26名と監事1名（2名は非改選）が選任され、その後開催された臨時理事会で業務執行理事（会長･理事長･副会長･常務理事）が決定いたしました。

45年に渡り本会を牽引していただいた村上公彦氏の引退という大きな出来事がありましたが、選任された理事一同しっかりと本会の運営を担い、さらなる発展につなげてまいります。引き続き会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

役職	氏名	経　歴
会 長	篠原勝弘	（公財）CIESF 理事、元 駐カンボジア特命全権大使
理事長	湯川　剛	（株）OSG コーポレーション 代表取締役会長・CEO
副会長	小原純子	（一財）大阪男女いきいき財団 元理事・現名誉顧問
副会長	法花敏郎	元 朝日ビルディング 社長
常務理事	吉田俊朗	元 ユニチカ（株）監査役
理事	池田直樹	弁護士、関西学院大学 教授
理事	市川　晃	（税）ANd 代表社員、税理士
理事	井上勇一	日本基督教団洛南教会 牧師
理事	上野孝一	（福）栄光会 理事
理事	沖田文明	（特活）関西ナショナル・トラスト協会 副代表理事
理事	金井英夫	元 IBM-Japan コンサルティング事業部 次長
理事	坂口久代	日本創生神楽連合会 会長
理事	櫻井紘哉	元（株）三和銀行 管財部長
理事	佐野光彦	神戸学院大学総合リハビリテーション学部 教授
理事	實　清隆	奈良大学 名誉教授
理事	〆木泰輔	エーゼル（株）代表取締役
理事	玉城博和	京都西南ロータリークラブ 役員、元 京旺（株）代表取締役
理事	永島智子	イオングループ労働組合連合会 会長
理事	端無　勝	（株）デュアルエデュケーション 代表取締役
理事	福澤邦治	パナソニックグループ労働組合連合会 会長
理事	藤原正昭	介護老人保健施設大阪城ケアホーム 施設長
理事	松原　正	（株）かんぽう 代表取締役
理事	宮川眞一	（医）鵞友会 牧病院 医師
理事	柳井一朗	日本基督教団洛西教会 牧師
理事	米田明正	（株）グローアップ 監査役
理事	渡辺治彦	（株）関電システムズ システムアーキテクト
監事	出口貴之	（株）宝屋 代表取締役
監事	毛利吉男	（株）カステロ 代表取締役
監事	山下泰之	元 東邦金属（株）常勤監査役

日本語ボランティア募集！

大阪市西区の小学校で週１～２回、外国籍児童に日本語サポートする活動に興味ある方、JAFS事務局までご連絡ください。

晴天下あつい自然体験

海のプログラムで、クジラを発見して大喜び＝8月6日、和歌山県新宮市

41回目の「土と水と緑の学校」

第41回土と水と緑の学校（土水）が8月5～9日（4泊5日）、和歌山県新宮市高田で開催され、小学3年生から中学2年生まで45名の参加を得て、無事に終えることが出来ました。

昨年はコロナ禍により4年ぶりの開催ということで、同窓会の雰囲気で和気あいあいと盛り上げましたが、今年の土水を一言で表すと「あつい土水」となりました。新宮・大阪・宮城県名取市から集まった子どもたちは、約半数が昨年も参加したリピーターで、昨年楽しかったから今年も絶対楽しむという熱気を持って高田に帰ってきてくれました。そしてリーダー・ジュニアリーダーは、初参加や昨年に続いての参加、数年ぶり・数十年ぶりの参加、今年こそリーダーをするという熱い思いでの参加など、昨年以上に層の厚みを増して子どもたちを迎えてくれました。さらに本部ボランティアの方は大半が社会人で、仕事などを調整しての参加。このように本当に皆の熱い思いがこもった土水だったと思います。

開催地の新宮市は、7月8日に観測史上最高の39・6度となり、7月の準備から8月の本番まで暑い日が続きました。とはいえ全日程が好天に恵まれ、3班とも土・水・緑・海の全プログラムを実施でき、昨年は雨で出来なかったテント泊やドラム缶風呂も楽しめ、またホエールウオッチングではクジラを見ることが出来た班もあるなど、本当に充実した内容となりました。開校式や入浴でお世話になる高田グリーンランドの方からも、「例年、土水が来たら雨が降ると言うのに今年は全く雨が降らないね」と言われるくらい、本当に暑い土水でした。

さて、昨年から高田中学校を本部として使わせていただいておりますが、今年は新たに高田小学校を寺子屋として使わせていただくなど、少しずつ土水も変化しています。プログラムでは昨年は出来なかった水の授業が復活し、子どもたちに大変好評でした。逆に、いつまでも変わらずあると思っていた土水のシンボルと言える旧高田公民館とお別れになるということで、館内に保管していた備品を全て搬出しました。空っぽになった講堂はとても広く、私がリーダーをした20～30年前もここで開校式や閉校式があったこと、降雨でテントから深夜に避難したこと、夜中までリーダーミーティングがあったことなど様々な思い出がよみがえり、長年お世話になった私は本当に寂しい思いですが、これも土水の変化の象徴ということだと思っています。

こんなにもあつい土水が無事開催されたことは、参加してくれた子どもたちを始め、新宮市やJAFS、リーダー・ジュニアリーダーやボランティアの皆様のおかげと感謝しています。

（JAFS会員　赤嶋 崇＝ニックネーム：みどろ）

環境コラム

リサイクル雑感

10月20日は、資源が「10（ひと回り）、20（ふた回り）」でリサイクルの日。そして10月は3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進月間です。

この夏、パリ2024オリンピック・パラリンピックが開催されました。3年前の東京2020大会でもメダルの原料金属がリサイクル100%と話題でしたが、パリ大会でも同様で、かつ中心の飾りにはエッフェル塔の古い鉄が使われたとか。オリンピック閉会式でピアニストの衣装は廃ビデオテープで装飾されていました。リオデジャネイロ2016大会のメダルは銀と銅の30%がリサイクル金属、リボンの50%がリサイクルPETだったそうですから、メダル作製にリサイクルが定着してきています。

東京大会の際は、不要な携帯電話や小型家電の回収が呼びかけられましたね。リサイクルされた金32kg、銀3,500kg、銅2,200kgから約5,000個のメダルが作られました。金1gを得るのに必要なスマホは何個でしょうか？答は約40個だそうです。国際オリンピック委員会IOCの規定で、金メダルのメッキには6g以上の金が必要とのこと。ということで、スマホ240個で金メダルが1つできるのですね。日本のスマホ出荷数は2023年に約2,600万個。その分、不要になったスマホがリサイクルされれば金65万g＝650kgが得られる計算です。

電子廃棄物や小型家電の充電式電池からは、種々レアメタルもリサイクル可能で、コストや技術面の課題に取り組まれているようです。この夏いっそう多く見かけた携帯小型扇風機。扇子であおぐ人は少数派になってきましたが、この小型扇風機にも充電式電池が使われており、発火事故を防ぐためにも処理には気をつけたいところです。

この夏見たものとして、廃食用油から作られる航空燃料SAFの駅内広告。私の住む市では15年以上前から、廃食用油から作る燃料でごみ収集車や市バスが走り、先進的な取組みだったのですが、飛行機まで飛ばせる時代になってきました。

世の意識変化や技術進歩により、社会は着実に循環型に変わりつつあります。生活者も変わらなければと思います。新しい便利な物が次々開発されて世に出ると使い方を学習して時代に追いつきますが、使用後の捨て方についても次々と新しい知識を得て適切に処理しなければいけませんね。

3Rのうち最優先はリデュースですが、必要な物を使った後は、ごみとして捨てるよりリユースやリサイクルが優先。ごみのポイ捨てが散見されるアジアで、プラごみを小規模リサイクルで有用な物に変身させるアップサイクルに取り組めたら、ごみと思っていたものが実は資源であると体感できポイ捨てしたくなくなるはず、 とアイデアを温め中です。　（JAFSスタッフ　川本 裕子）

入会・寄付ご案内

会員となって継続的に支援くださることで、安定した活動計画ができます。ご協力をお願いいたします。

A．維持会費　年額1口　12,000円（月額1,000 円）
B．賛助会費　年額1口　6,000円（月額600 円＝振込手数料含む）
C．ジュニア会費（高校生まで）　年額1口　1,000円
D．団体会費　年額1口　20,000円
E．法人賛助会費　年額1口　50,000円

会費・寄付の振り込み先

三菱UFJ銀行中之島支店 普通1007011 または 楽天銀行リズム支店(209) 普通7006892【口座名 シャ）アジア協会アジア友の会】

JAFS 事務局新スタッフ紹介

7月からの新スタッフ榮（さかえ） 泰隆（やすたか）です。市民活動などNPO分野で20年ほど勤務してきました。JAFSは国際支援分野で公益社団法人格を持ち、歴史と偉大な業績のある法人と認識しました。JAFSでの業務は新たなチャレンジです。進んで取り組み、新しい発見を重ねていきます。

編集後記

夏　休みに帰省した小学生の孫を連れて大阪、奈良県境の金剛山に登りました。登山口からアスファルト、丸太棒の階段を登って2時間。標高1125mの山頂は下界より2～3度低く、しばし暑さを忘れました。（敏）

盛　夏の巨大地震注意で自宅の保存食を調べたら、パックご飯30食分が賞味期限を5ヵ月も超過。「もったいないから」と我が身に言い聞かせ、1日2パック、2週間かけて消費した。これもSDGsの一環？（督）

自　民党総裁選よりも、アメリカの大統領選の方に関心が高く、関連の報道が気になる。ニュース番組は勿論、専門家の解説が聞ける報道番組などを毎日はしご。決着がつくまではテレビから目が離せない日々が続く。（和）

五　輪やり投げ金の北口榛花（はるか）選手。笑顔の陰に決断があった。不調時「もうやめたら」と諭す母に「ごめん。諦められない」と告げ、良い指導者がいるチェコへ単身渡ったとか。生きがいという言葉を思い出しました。（黒）

8　月8日、和歌山県で「土と水と緑の学校」開催中の最終日前日、南海トラフ地震臨時情報が出た。幸い1週間程でJR特急の運休など解除されたが、大地震はいつ起きてもおかしくないと再認識した瞬間だった。（裕）

▲「土と水と緑の学校」の緑のプログラムで暑い中をハイキング。ゴールの「一の滝」で涼を取る参加者＝8月6日、和歌山県新宮市。22ページに報告記事

◀表紙の写真　土肌むき出しの急斜面で、日本の技術を活かして土砂災害対策工事をする現地作業員。後の畑ではトウモロコシを植える準備中＝6月2日、ネパール、シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村。4～6ページに特集記事

募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で
貧困に苦しむ人たちを支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835　アジア協会アジア友の会

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会
（JAFS）

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14　肥後橋官報ビル５階
☎ 06-6444-0587　FAX 06-6444-0581　E-mail asia@jafs.or.jp
URL: https://jafs.or.jp Facebook: https://www.facebook.com/JAFS.NGO/

2024年10月 159号　　発行人：篠原勝弘
広報企画委員長：法花敏郎
編集アドバイザー：松本 督、黒沢雅善
編集スタッフ：熱田典子、大本和子、柿島 裕、川本裕子
印刷製本：あさひ高速印刷株式会社

HPもご覧ください